



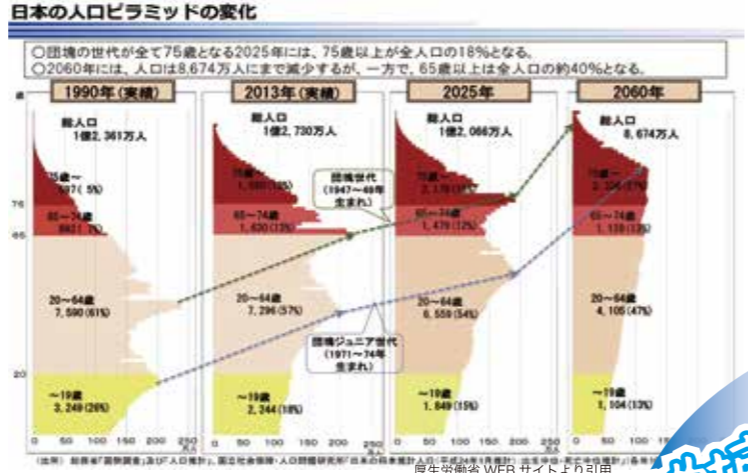
発行責任者 山元俊憲
 昭和大学薬学部
 東京都品川区旗の台1-5-8
 電話：03-3784-8000 (代)

至誠一貫 昭和大学は、薬学部のほか、医学部、歯学部、保健医療学部からなる日本で唯一の本格的医系総合大学です。本学の建学の精神「至誠一貫」は、真心を持って患者さんに尽くすことを意味します。薬学部では、患者さん中心の医療を実践するヒューマンズムあふれる薬学専門家の養成を目指します。

表題の「薬と学ぶ」は、薬についての知識を学習するだけでなく、その知識を持ちながら、薬についてのプロフェッショナルという専門性を生かしてチーム医療の中で患者さんに対応する能力を学ぶという意味を表現したものです。

EDUCATION 教育

『超高齢社会における在宅医療・介護の役割』
 日本人口は2007年をピークに減少をはじめ、2025年には約1億2,114万人、2050年には約1億59万人になると予測されています。また、日本は2025年(平成37年)に超高齢社会※を迎え、国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれています。そのため、国民が望む療養の場および看取り(みとり)の場を確保するために在宅医療と介護の推進が急がれています。



文部科学省「大学と地域で育てるホームファーマシスト」事業

昭和大学薬学部の「在宅チーム医療教育推進プロジェクト」が文部科学省により採択されました。このプロジェクトは、ご自宅で療養されている患者さんご家族の思い(ナラティブ)を支え、在宅チーム医療を実践できる薬学生を医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部と地域の医療機関や組織と連携して育て、社会に貢献することを目的としています。そのために、在宅チーム医療に求められる専門性の高い態度や知識、技能を1年次からバランスよく身につけ、患者さんのQOL(生活の質)の維持と向上を目指します。そして、適切な治療やケア、支援を積極的に実践できる医療人を育成します。昭和大学は広く地域医療に貢献しています。

大学と地域で育てるホームファーマシスト

～患者と家族の思いを支え、在宅チーム医療を実践できる薬剤師養成プログラム～

指導薬剤師	思いを受容し支える力	チームでの問題発見・解決能力	在宅医療実践力 (薬学・医学・歯学・看護・IT的管理)
[卒業教育]	高齢者、在宅患者と家族の思い、語り(narrative)を受け入れ、支えるためのコミュニケーション、医療ヒューマンズムを涵養する。	高齢者、在宅患者の抱える問題を発見し、解決するために、多職種が連携・協働し、最善の治療・ケアを立案・実践する能力を修得する。	在宅医療のシステムを理解し、高齢者・在宅患者と家族のQOL・ADLを評価・支援する、多職種が共有すべき専門的な技能を修得する。
[5-6年次]	6年次 [地域の多職種のスタッフと連携し、患者とご家族を支える] ・学部連携在宅医療実習 + アドバンスPBLチュートリアル	5年次 [在宅チーム医療実践の基礎を構築する] ・4学部連携PBLチュートリアル (臨床判断・問題解決型)	在宅医療支援実習 (服薬支援、医療・生活介助、フィジカルケア実習)
[3-4年次]	5年次 [患者と家族のナラティブに寄り添う] ・在宅シミュレーション演習・実習 (ロールプレイ、患者・家族との対話) ・高齢者コミュニケーション演習	6年次 [在宅チーム医療の問題を共有する] ・4学部連携PBLチュートリアル (課題発見型)	在宅患者を支える仕組みと技能を知る ・高齢者福祉施設体験 (支援の仕組みと技能の見学)
[1-2年次]	4年次 [患者と家族の思いに共感する] ・在宅医療体験実習 ・在宅医療の倫理	3年次 [在宅チーム医療の問題を共有する] ・4学部連携PBLチュートリアル (課題発見型)	在宅医療の倫理

在宅チーム医療教育推進委員会
 ・支援室長・教育職員・事務職員
 ・昭和大学(薬・医・歯・保健医療学部、富士吉田教養部)教員
 ・昭和大学附属病院の医療スタッフ
 ・地域薬剤師会、医師会、歯科医師会

協力連携施設(1都2県)
 ・昭和大学附属8病院(東京都内、神奈川県内)
 ・山梨県内3病院
 ・薬局(約50施設)、診療所(約20施設)、特別介護老人ホーム
 ・訪問看護ST、歯科診療所、介護支援センター
 ・品川・荏原・江東区・大田区・富士五湖地区薬剤師会
 ・大森医師会
 ・品川、山梨県歯科医師会

各種FD研修会

地域医療をチームで支える!

在宅医療をチームで実践する教育カリキュラム
 ～ 1年次と6年次のトライアルの紹介 ～

1年次 高齢者宅訪問実習と在宅医療をテーマとした学部連携 PBL チュートリアル

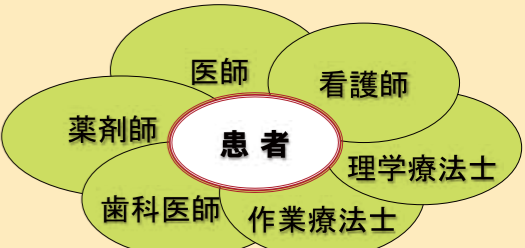
高齢者の在宅医療を支える医療人になるためには、まずはお年寄りの生活や健康に対する不安・希望などの思い(ナラティブ)を知らなければなりません。そこで、4学部1年生の合同チームが福祉施設で介助を行う従来の初年次体験実習に加えて、平成27年度から1年生合同チームが富士吉田市内の高齢者宅を訪問し、日常生活などのお話を伺う高齢者宅訪問実習(図1)と、お年寄りの健康に関わる問題点や解決方法を学生グループで討議するPBLチュートリアル(図2)という学習が開始されます。2月にそのトライアルを行いました。



図1 高齢者宅訪問



図2 PBLチュートリアル



それぞれの職種は互いに意思の疎通を図り、自己の専門領域を超え、できることは積極的にカバーしあいながら協業する。

6年次 学部連携地域医療実習

6年生では、4学部の学生チームが地域の在宅医療を学習する学部連携地域医療実習を実施しています。東京都内、横浜市、富士吉田市などの6地域で、毎日、地域の医療スタッフ(医師、薬剤師、看護師、歯科医師、福祉・介護職など)とともに、高齢者や終末期などの多く患者さんのお宅を訪問し、在宅患者さんに対するチーム医療を連携・協力しながら学習しています。数年後には、実習を30地域まで増やし、これからの医療の中心となる在宅医療をチームで実践できる医療人を育成します。



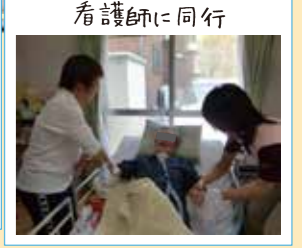
医師に同行



薬剤師に同行



歯科医師に同行



看護師に同行

在宅医療って
 いろんな職種で
 支えられているんだね。

在宅医療で活躍する
 薬剤師の先生
 畠中岳(薬局すばる)



担当医と治療について話し合う畠中先生(右)



患者さんへの服薬指導の様子

私は、都市部の総合病院勤務を経て、約20年前から高齢化の著しい地方の薬局で在宅臨床に携わっています。在宅業務では、生活と医療を結ぶ薬の位置付けと役割を肌身で感じることが出来ます。そして、様々な患者さんの生活を支えるためにも、医療は進歩し続けなければいけない分野であると、あらためて感じさせられています。そこで、私自身も地域医療を支える薬剤師として、患者さんとその家族をサポートするために常に薬との学びを続けています。

昭和大学薬学部には、臨床業務に資するための学びが準備されています。皆さんも昭和大学薬学部で学び、薬剤師として臨床業務で力を発揮しませんか!?

INFORMATION 情報

昭和大学の入試関連情報は、PCからアクセス <http://www.showa-u.ac.jp/admissions/index.html>

なんだろう?
 Q. 飛沫感染と空気感染の違いって何だろう?



この問題の解説は、http://www.showa-u.ac.jp/sch/pharm/kusuri_manabu.html

ご意見、ご質問 昭和大学薬学部 広報委員会
 〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8
 昭和大学薬学部毒物学部門内 担当: 沼澤 聡
 numazawa@pharm.showa-u.ac.jp